

環境マネジメント

環境基本方針

2-12,2-13,2-24

基本的な考え方・方針

ユニ・チャームが提供している商品やサービスは衛生的な日常生活に欠かせない消費財です。しかし同時に、資源の利用や廃棄物発生など地球環境と密接に関係しており、世界各地で事業展開を進める中で、当社の環境負荷低減の役割や責任が年々拡大しています。

当社は、消費財を扱うメーカーとして地球環境保全に対する責任の大きさを認識するとともに、「ユニ・チャームグループ環境基本方針」に基づき、SDGsやパリ協定等の目標の達成に、事業を通じて貢献します。また、すべての企業活動において地球環境に配慮したモノづくりを推進し、世界中のすべての人々のために、快適と感動と喜びを与えるような商品・サービスを提供することで、地球環境保全と経済的成長を両立した持続的発展可能な社会の実現に貢献します。

2020年5月に策定した「環境目標2030」では、「プラスチック問題対応」「気候変動対応」「森林破壊に加盟しない（調達対応）」の3つの課題に対して、2050年のビジョンを掲げた上で2030年の目標を設定しました。また、同10月に策定した中長期ESG目標「Kyo-sei Life Vision 2030」においても「地球の健康を守る・支える」の重要取り組みテーマを設定し、目標達成に向けた活動を推進しています。

P.16 【中長期ESG目標】環境目標2030

P.10 【中長期ESG目標】Kyo-sei Life Vision 2030

▶ ユニ・チャームグループ環境基本方針

2-23

私たちは、未来の世代へ美しい地球を受け継いでいくために、使い捨て商品を取り扱うメーカーとしての責任の大きさを認識し、世界中の全ての人のために、快適と感動と喜びを与えるような商品・サービスを提供し、地球環境保全と経済的成長を両立した持続的発展可能な社会の実現に貢献します。

環境基本方針

- 環境に配慮した商品・サービスの開発への取り組み
私たちは、商品・サービスの提供の各段階「コンセプト立案～原材料調達～製造・加工～物流・販売～使用～廃棄・リサイクル」における環境負荷をできる限り低減（省エネルギー、省資源、廃棄物削減など）するような商品設計・サービス設計を行い、消費者へ提供します。
- 気候変動対応への取り組み
私たちは、地球温暖化を抑制するために、バリューチェーン上の温室効果ガスを可視化し、正しく把握し、削減に取り組み、排出量ネットゼロの実現を目指します。
- 省エネルギー、省資源、廃棄物削減への取り組み
私たちは、地球環境保全のため、商品の開発・設計段階で省エネルギー、省資源、廃棄物削減などに配慮した技術の開発に努めます。また、バリューチェーン上の全ての活動において、資源やエネルギーの効率的な使用、廃棄物・排出物の削減、リサイクルに努めます。
- 地域や自然の環境保全に責任ある取り組み
私たちは、バリューチェーン上の全ての活動における森林資源や水資源の活用において、生物多様性を考慮し、地域や生態系の保全に努め、排水等による汚染防止に積極的に取り組み、地域や自然に悪影響を及ぼすことのないよう責任を持って取り組みます。また、万が一、環境に対し何らかの悪影響を及ぼしていることを把握した場合には、最優先かつ迅速に是正措置を講じます。
- 法規制などの遵守への取り組み
私たちは、原材料の調達から使用後の廃棄までの商品ライフサイクルの全段階で、関係する法規制や条例などを遵守するとともに、自主的な行動基準を設定し、地球環境保全に努めます。
- 社会とのコミュニケーションの取り組み
私たちは、持続可能な社会を構築するために、お取引先様をはじめとするさまざまなステークホルダーとパートナーシップを築き、信頼される企業となるように努力し続けます。

ガイドライン

- 環境に配慮した商品・サービスの開発への取り組み
 - 私たちは、「地産地消」を旨とした原材料の調達と使用に努めます
 - 私たちは、原材料におけるバージン石化由来プラスチックの使用量を削減します
 - 私たちは、使用済み商品のリサイクルシステムを確立し、展開国・地域を増やします
- 気候変動対応への取り組み
 - 私たちは、バリューチェーン上の温室効果ガス排出量を正しく把握し、削減計画を立案し、これを着実に実行します
 - 私たちは、再生可能電力を積極的に活用します
- 省エネルギー、省資源、廃棄物削減への取り組み
 - 私たちは、エネルギーや原材料を効率的に活用します
 - 私たちは、商品（含む包装材）の省資源化に努め、リサイクルを推進します
 - 私たちは、バリューチェーン上の全ての活動で生じる廃棄物を削減します
- 地域や自然の環境保全に責任ある取り組み
 - 私たちは、生物多様性の保全に努め、持続的な利用に寄与する技術の開発・利活用・普及を推進します
 - 私たちは、バリューチェーン上の全ての段階において、生物多様性の保全と持続可能な利用に貢献します
 - 私たちは、森林資源破壊に加盟することのないよう、認証材を活用し、トレーサビリティの確保に努めます
 - 私たちは、水リスクを把握し、水リスクの高い国・地域で事業活動を営む場合には、適切な対策に努めます
 - 私たちは、効率的な水の利用と排水による汚染防止を推進し、水課題に取り組みます
- 法規制の遵守への取り組み
 - 私たちは、自社に関する環境法規制や条例などを遵守します
 - 私たちは、必要に応じて自主基準を設定し遵守します
 - 私たちは、法規制や条例、自主基準などについて、これを遵守していることを定期的に評価し、万が一守れていない場合には是正措置を講じます
- 社会とのコミュニケーションの取り組み
 - 私たちは、お取引先様、顧客、地域の人々、外部機関、専門家など全てのステークホルダーと真摯な対話に努めることによって、地球の生態系を守る活動を共に推進します

マネジメント体制

当社の環境活動は、取締役会の監督下に設置されているESG委員会（社長執行役員が委員長）がマネジメントしています。日々の業務と密接に関連するISO14001の運用については、各事業所が主体的に推進し、あらかじめ設定した管理項目・KPIに照らしてゲート管理を行い、PDCAサイクルを回しています。なお、環境に関する状況の把握などはESG本部が担い、年4回開催されるESG委員会に報告しています。ESG委員会での討議内容は、取締役会にも報告されます。

「環境目標2030」と「Kyo-sei Life Vision 2030」の「地球の健康を守る・支える」で設定している重要取り組みテーマを当社の環境重点目標として位置づけ、各部門の目標に落とし込み、さらに個人の目標や、週単位の行動計画に紐づけるといった細やかな活動を行っています。「Kyo-sei Life Vision 2030」の重要取り組みテーマは、2030年まで時間をかけて目標達成を図り、「環境目標2030」は毎年確実に成果を積み上げていきます。

▶ 環境マネジメント体制



P.8 サステナビリティ推進体制

ESG評価を加えた評価・報酬制度

取締役や執行役員がリーダーシップを発揮し着実にESG戦略を実行するために、2020年度より取締役（監査等委員である取締役を除く）および執行役員の評価指標にESG項目を導入しました。また、2023年度より全社員の人事評価指標にもESG項目の導入を拡大しました。

P.118 役員報酬の評価指標・考え方および2024年度の目標・実績

ISO14001に基づく環境マネジメント

当社では、国内外の各事業所において、環境管理の国際規格ISO14001の認証を取得し、規格に基づいた環境マネジメントシステム(EMS)を運用・実践することで、環境保全活動を継続的に進めています。

2024年12月末時点で、ISO14001の認証を取得している事業所の割合は、77.4%（日本76.9%、海外77.8%）です。

P.143 社会データ>ユニ・チャームグループのISO取得状況(認証単位)

環境リスク予防と

パフォーマンス向上のための環境監査

当社では、環境リスクの予防と環境パフォーマンスの向上を目的とし、主に3つの環境監査を実施しています。

- (1) ISO14001に基づく定期監査
- (2) 産業廃棄物適正処理のための委託先現地確認
- (3) 法規制遵守状況確認など、目的を絞ったフォーカス監査

環境法規制監査の結果

2-27

環境法規制上求められる検査やデータの集計および行政提出書類については、2024年度も正しく提出されていることを確認しました。環境法規制違反による罰金の発生はありません。また係争中の環境案件もありません。

指標と目標

「環境目標2030」と「Kyo-sei Life Vision 2030」の「地球の健康を守る・支える」で重要取り組みテーマを策定し、目標達成に向けた取り組みを推進しています。

P.16 【中長期ESG目標】環境目標2030

P.14 【中長期ESG目標】Kyo-sei Life Vision 2030>地球の健康を守る・支える

取り組み・実績

ステークホルダーとの連携 2-28

気候変動などの環境問題は当社だけで解決できるものではありません。そのため、企業・団体や政府などのさまざまな施策やイニシアチブに積極的に参画し、取り組みを推進しています。

気候変動	<ul style="list-style-type: none"> TCFD(Task Force on Climate-related Financial Disclosures/気候関連財務情報開示タスクフォース) SBTi(Science Based Targets initiative/科学的知見と整合した目標根拠を認定するイニシアチブ) JCI(Japan Climate Initiative/気候変動イニシアティブ) RE100 JCLP(日本気候リーダーズ・パートナーシップ) GXリーグ GreenxDigitalコンソーシアム 2050年を展望した経済界の長期温暖化対策の取組み(経団連) 経団連カーボンニュートラル行動計画
プラスチック問題	<ul style="list-style-type: none"> プラスチック・サーキュラー・チャレンジ2025 プラスチック・スマート 国際プラスチック条約企業連合(日本) CLOMA(Japan Clean Ocean Material Alliance)
生物多様性	<ul style="list-style-type: none"> J4CE(循環経済パートナーシップ) 循環型社会形成自主行動計画(経団連) 経団連生物多様性宣言・行動指針 Re-Styleパートナー企業 一般社団法人緑の循環認証会議(SGEC/PEFCジャパン)

サプライヤーを対象とした「中長期方針説明会」

当社は、資材品質の安定化と調達に関する方針やガイドラインの浸透を目的として、2024年10月にサプライヤーを対象とした「第15回ユニ・チャーム中長期方針説明会」を開催しました。パーソナルケア商品向け資材サプライヤー、ペットケア商品向け資材サプライヤーや外部生産委託先など、オンラインを含めて133社283名が参加しました。「中長期方針説明会」では、環境基本方針、人権方針、調達方針など各種方針の周知徹底を図るとともに、持続可能なサプライチェーン構築のための当社方針やガイドラインの理解とSedexの活用、「Kyo-sei Life Vision 2030」「環境目標2030」の達成に向けた諸活動の進捗状況や、「GHG排出量可視化プロジェクト」へのデータ提供、安心な商品の供給による顧客満足度向上の実現を目指す品質管理活動などについて報告・説明の上、協力を依頼しました。

P43 「GHG排出量可視化プロジェクト」

社員を対象とした環境教育

新入社員研修などの各種研修や社内イントラネット、メールでの情報発信を通じて、社員の環境意識向上のための環境教育を実施しています。また、担当業務ごとに必要となる特定スキルを身につけるための勉強会を定期的に開催しています。

【ブラジル】社員に向けた環境教育

ブラジルの現地法人UNICHARM DO BRASIL INDÚSTRIA E COMÉRCIO DE PRODUTOS DE HIGIENE LTDA.(UCB)では、ユニ・チャームグループの環境に関する目標や成果、過去2年間のUCBの取り組みなどについてレクチャーを行い、UCBの社員など約300名が参加しました。



【マレーシア】世界環境デーに合わせた環境活動

マレーシアの現地法人では、「Our Land, Our Future. We are Generation Restoration」をテーマに掲げ、6月5日の世界環境デーに合わせて3つの環境活動を実施しました。

- (1)社員が家庭から古紙やアルミ缶、古着等を持ち寄り障がい者を支援するNPO「Dual Blessing Bhd.」にリサイクル材として寄付
- (2)マレーシア環境省から講師を招き、電子廃棄物のリサイクルに関する講演を開催
- (3)住宅・地方自治省傘下の固形廃棄物・公共清掃管理公社の専門家とともに、3Rキャンペーンを実施

【アメリカ】営業部門に向けた環境教育

アメリカの現地法人The Hartz Mountain Corporation(Hartz)は、「サステナビリティへのコミットメント」「2050ビジョン」「2030年のサステナビリティ目標」と主要な項目の成果をまとめた資料を営業部門向けに作成し、周知徹底を図りました。Hartzのお客様は、環境を尊重するサプライヤーとの提携を求めているため、これらのサステナビリティへのコミットメントや目標を営業活動に活用することで、販路の拡大につながると考えています。

「えらぶ つかう めぐらせる」サイトを公開

当社は、「環境目標2030」および「Kyo-sei Life Vision 2030」に基づいて、持続可能な社会の実現を目指し、さまざまな活動を行っています。日本では、使用済み紙パンツ(紙おむつ)を再資源化するReff(Recycle for the Future)プロジェクトの取り組みについて「紙おむつの未来を考えるnote」で紹介していますが、それ以外にも多様な取り組みを実施し、改善効果も表れています。海外でも、各国・地域ごとの特性や状況に応じた活動を積極的に実施しています。

また、2024年5月に実施した「日用品のサステナブルに関する意識調査」では、多くの人が生理用品、ペット用品、育児用品、介護用品などの衛生用品に関して「サステナブルな行動をしたい」という意識はあるものの、「何をしたらよいのか分からない」と感じていることが分かりました。このような調査結果を踏まえ、ステークホルダーに広く当社の環境に関する活動を周知し、環境対応を協働すべく、2024年6月5日の世界環境デーに合わせて、「えらぶ つかう めぐらせる」サイトを公開しました。本サイトでは、CO₂排出^{ゼロ}を目指す「2050ビジョン」とロードマップや各国・地域の活動事例などを紹介しています。



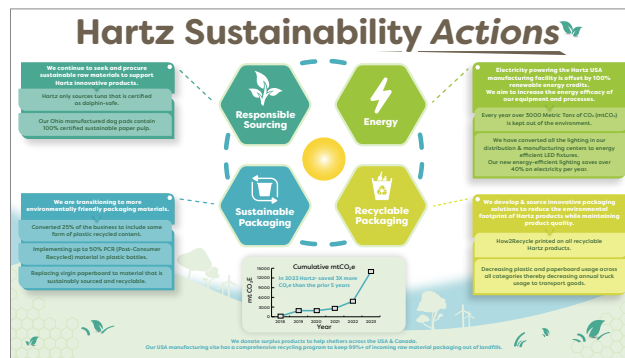
web ユニ・チャーム_紙おむつの未来を考えるnote
https://note.com/unicharm_reff

web 「日用品のサステナブルに関する意識調査」結果
<https://www.unicharm.co.jp/ja/company/news/2024/0604-01.html>

web 「えらぶ つかう めぐらせる」サイト
<https://www.unicharm.co.jp/ja/csr-eco/ghg.html>

【アメリカ】サステナビリティサイトの更新

アメリカの現地法人は、Webサイト「Sustainability Actions & Commitment」を更新し、「Our Commitment」「Our Vision」「Our Goals」として短期および長期のサステナビリティ目標を掲載しました。また、4つの主要な項目(エネルギー、責任ある調達、持続可能な包装材、リサイクル可能な包装材)について成果を開示しました。



web Hartz Sustainability Actions & Commitment
<https://www.hartz.com/sustainabilityactions-commitment/>

「脱炭素チャレンジカップ2025」に協賛

当社は「脱炭素チャレンジカップ」に10年連続で協賛しています。「脱炭素チャレンジカップ」とは、脱炭素社会の構築を目指し、次世代に向けた地球温暖化防止につながる活動に取り組む多種多様な団体(学校・企業・自治体・NPOなど)を表彰しており、当社は協賛企業として「最優秀Love Your Possibilities賞」を設けています。

「脱炭素チャレンジカップ2025」の最終選考では、学生部門、ジュニア・キッズ部門、企業・自治体部門、市民部門で合計53団体が発表を行い、その中から愛媛県立大洲農業高等学校の「バショウによるCO₂削減～脱炭素社会の実現」(学生部門)を「最優秀Love Your Possibilities賞」として選出し、表彰しました。



CDP

当社は、世界中のさまざまなステークホルダーに対し、積極的な情報開示を行う一環として、グローバルで環境に関する調査を実施して情報開示を行い、持続可能な社会の実現を図る国際的な非営利団体であるCDPに参加し、質問書に回答しています。

2024年度は、「気候変動」「フォレスト」「水セキュリティ」分野に関する3つの調査すべてにおいて、最高評価の「Aリスト」に選定されました。



CDP評価

	2022年度	2023年度	2024年度
気候変動	A-	A-	A
フォレスト	B	A	A
水セキュリティ	B	A	A

「第6回ESGファイナンス・アワード・ジャパン」で環境サステナブル企業に選定

使用済み紙パンツ(紙おむつ)の水平リサイクルや、気候変動対応、再生可能電力への切り替え、プラスチック使用量の削減、生物多様性保全などについて全社を挙げて、着実に推進して状況を開示したことなどが評価され、「第6回ESGファイナンス・アワード・ジャパン」において環境サステナブル企業に選定されました。

